

校長先生の日記⑬ 5・7年合同宿泊行事特集

R6.7.25

夏休みに入りましたが、5・7年生の合同宿泊行事が行われました。初日はあいにくの不安定な気候でしたが、それが幸いして涼しい中で活動ができました。夜には、星空の下でキャンプファイヤーを行うこともできました。本校では5・7年生が合同で宿泊行事を行います。それにはたくさんの目的や意義があります。今回2日間宿泊行事に参加してみて、改めてその有効性について確認することができました。



出発は雨。予報を見ると、雨は降ったりやんだり。その合間を縫って活動ができるといいなと願いながらの出発となりました。班は、5・7年生がミックスの班となっています。班の中では、役割が5年生にも7年生にもしっかりあり、力を合わせて行動する状況が整っています。それでも7年生にとって5年生は下級生。気遣い、支える姿がもうすでに見えていました。5年生も安心して出発できました。



結団式は屋内で行いました。いよいよこれから楽しい2日間が始まります。「夢一步」という大きな作品の前で記念撮影。たくさん交流して、互いのよいところから学び合える2日間になるように願いました。



最初の活動は、アドベンチャープログラムでした。班の仲間と交流して、いろいろなミッションに挑戦しました。見えない濁流をターザンロープで渡って、島に全員乗ったり、エア2人3脚からの15人16脚に挑戦したり。ミッションをクリアしていく度にそれぞれの仲がよくなり、仲間意識も生まれてきました。3時間たっぷり活動し、笑って、考えて、協力して、楽しむことができました。どちらかというと控えめな7年生も、5年生と一緒に自分が出ざるを得ません。そんな中で、リーダーとしての自覚が芽生えていくのだなと思いました。



お昼のお弁当もグループで仲良く食べました。同じ学年でもクラスが違うとなかなか交流できないので、こういう機会があると、学年の絆もさらに深まるなと感じました。しっかり腹ごしらえもすんで、午後からの活動が始まります。5年生主催のレク、カレー作りです！



午後の最初の活動は、5年生主催のレクでした。元気いっぱいの司会が進めるゲームはどれも盛り上がりました。5年生もやってもらえばかりではなく、自分たちで計画し、全体を動かすという経験をするので、これからリーダーとなっていく素地を築くことができました。何事も経験に勝るものはありません。コロナでこういうことができなかった4年間を少しずつ取り戻していきます。



そしていよいよ夕飯づくりです。説明書を見ながら7年生を中心に調理が始まりました。野菜を洗ったり、火を炊く準備をしたり、順調に進んだ班もあれば、なかなか包丁がうまく使えず苦戦する班もありました。途中雨がかなりひどく降る瞬間もあり、火が消えるハプニングもありました。なんとか完成に近づいた頃、さーっと大風が吹いたかと思ったら、雲の間から日が差し、先ほどまでの雨はなんだったのか？と思うようないい天気になってくれました。山の神様にご褒美をもらったようでした。ご飯がうまく炊けない班がありましたが、ご飯を分けてもらってみんな満腹になることができました。片付けも力を合わせてテキパキと行い、時間内に活動を終わることができました。普段便利な生活をしている子どもたちにとって、なかなかハードルの高い活動となったようですが、どうしようもならないけど頑張らなくてはならないという経験をするのも大切なことではないかなと思いました。



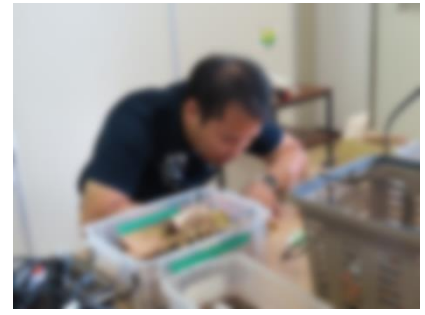
そして夜はお楽しみのカンパファイヤー。山の神の「黒姫妙子」さんから、「友情の火」「健康の火」「努力の火」「希望の火」の4つの火を与えてもらい、1つの大きな火となり燃え上がりました。それはそれは大きな火となって燃え上がったカンパファイヤーの周りで、ダンスを踊ったり、意見発表をしたりしました。こんなに大人数でのカンパファイヤーを経験することはもうないかもしれません。心に残る大切な思い出となって残ってくれること祈ります。



人生初の一人お泊まりの子どもたちもいて、「眠れないかも」「怖いよ」などなかなか寝る体制にはなりません。寝るのがもったいないという子どもたちもいたかもしれません。テレビやゲームのない夜に友だちとカードゲームをしたりして楽しんでいました。そんな夜もいいですね。この後すぐに眠れたかどうかは・・・。

元気に起床した子どもたち。バイキングでおいしい朝食をたっぷり食べました。昨日カレーを食べたのが、4時頃なので、すっかり空腹の子どもたちでした。野菜を率先して摂るなど、バランスも考えて食べていました。日頃の食育が生きていたと感じました。

朝食の後は、清掃、荷物の整理などお世話になった場所をしっかりと清めました。「思いやりのリレー」が妙高自然の家のルールです。今日ここに宿泊するみなさんが気持ちよく使えるよう念入りに清掃しました。点検にきた職員の方に、「きれいにしていただき、本当にありがとうございました」感謝していただきました。こういう場面で、しっかりできるのが信濃小中学校の子どもたちの素晴らしいところだと感じました。日頃から清掃に力を入れている成果だと確信しました。



宿泊体験最後の活動は、クラフト体験でした。「マイスプーンづくり」と「マイプレート」づくりを行いました。自分の気に入ったスプーンの柄を見つけ、穴を開けてスプーンを作りました。自分の手にフィットするスプーンの柄を慎重に選び、その細い枝にドリルで穴を開ける作業はなかなか難しい作業でした。しかしできあがったのは世界に一つしかない自分のスプーンです。みんなとても嬉しそうでした。マイプレートには「勉強中」「睡眠中」などのメッセージや自分の得意な絵などを描き込んでいました。「勉強中ってやっておいて、ゲームしてるんだ」なんてことを考えているようだったので、「おうちの人は絶対にだまされないといいよ」と伝えると、「そうだよ！めったに勉強なんてしてないんだからそんなの出しておいたって、勉強なんてしてるとって思わないよ！」と友だちから鋭すぎる突っ込みをもらっていました。(友だちっていいですね) 欠席した生徒のスプーンの柄に一心不乱にメッセージを書き込む先生の姿も見られ、大人でも夢中になってしまうほど魅力的な体験でした。子どもたちもぎりぎりまで作品作りに取り組んでいました。



いよいよ退館の時間になってしまいました。

代表の2人が感想を發表してくれました。最初は話せなかった仲間とだんだん打ち解けて、仲良くなることができましたと振り返ってくれました。そもそもこのキャンプの目的は5・7年生が交流し、仲がよくなることだったので、目標を達成することができたこととなります。互いを思いやり、上級生は下級生を支え、下級生は上級生の姿を見て、2年後はあんなふうになりたいと憧れを抱けることで、信濃小中学校の伝統が確実に受け継がれていくのだと思います。

そして、それぞれのクラスの絆もしっかり深まったと思います。仲間同士、先生との関係、学年のまとまりなど、体験を通して確実に強く、確かなものになっていると感じました。

異学年で一緒に行事を行うのは実は、準備等がとても大変です。しかし、子どもたちに残るものは、単独で行うより遙かに大きいです。また異学年の交流を大切にしている信濃小中にとって、この合同宿泊研修は、より深いつながりを産み、信濃小中学校をリードしていく人材を育てるためにも欠かせない行事であると確信しました。ここでの体験が2学期の生活に生きることを願います。ご準備いただいた保護者のみなさま、先生方に心から感謝申し上げます。